１５　う　　め

(1) 生産目標

品種・系統	10a当り収量	精果率	目標階級
白加賀 玉英 鶯宿	1,000kg	80%	L～M果

(2) 経営目標及び労働時間

経営指標（10a当たり）

①出荷量（kg）	800
②販売単価（円）※	189
③粗収益（円）	151,200
④経営費（円）	88,405
⑤農業所得（円）	62,795

※　平成22年～令和元年の平均単価

ア　販売価格の推移　　（単位:kg当たり円）

年次	H22	23	24	25	26	27	28	29	30	R1
単価	164	165	247	103	141	163	211	231	208	259

（H30まで：全農山口扱い、R1：ＪＡ山口県扱い）

イ　経営費の内訳　　（単位:10a当たり円）

費用	金額	備考
肥料費	9,011	
農業薬剤費	4,939	
光熱動力費	3,936	
諸材料・小農具費	6,758	
修理費	5,712	
償却費	30,349	・販売費用内訳
販売費用	20,400	包装資材費　8,000
管理費用	7,300	運賃　4,000
合計	88,405	手数料　8,400

ウ　投下労働時間（10a当たり）

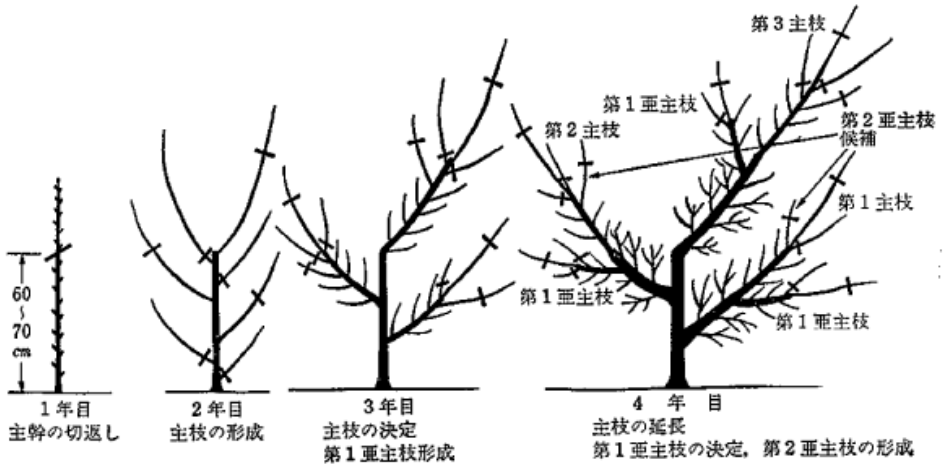
(ｱ)　月別労働時間

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
2.0	0.5	6.0	13.0	14.5	143.0	6.5	4.0	3.5	1.5	21.5	15.0	241.0

(ｲ)　作業別労働時間

整枝せん定	施肥	土壌改良	除草草刈	新梢管理	防除	収穫出荷	その他	計
24.0	4.5	6.5	14.0	12.0	17.5	150.0	12.5	241.0

⑶ うめ重点推進事項

事　　項	推　　進　　内　　容
1　適地の選定	1　低温による被害は、開花期-2～-4℃、幼果期-1～-2℃以下で発生することから、2月から4月の気温がその条件にならないこと。また、冷気のたまりやすいくぼ地や風当たりの強い場所を避ける。
2　樹形づくり	1　枝が開帳しやすいことから、3本仕立の開心自然形とする。 2　日陰の枝は枯死しやすいため、樹冠内部に十分光が当たるよう強大な枝はせん除する。 3　基枝優勢に留意し、主枝・亜主枝・側枝の区別を明確に整枝する。また、頂芽優勢性を保つため、骨格枝先端を強化する。 4　徒長枝、発育枝の切り返しによる新しい側枝の育成を行い、側枝は3～4年で更新する。  開心自然形の年次別主枝，亜主枝の形成 －農業技術体系 果樹編6より－
3　大玉果つくり	1　短果枝1～2果、中果枝2～3果、長果枝5～6果を目安に摘果する。
4　結実の安定	1　自家結実性の低い品種が多いため、結実確保のため2～3品種を混植するか、受粉向き品種（花粉多い）を植える。この際、開花期がほぼ同じであることに留意する。 2　防風垣を整備し、風よけと日溜まりを作る。 3　発芽期の芽かぎと夏期の徒長枝抜きを行う。
5　病害虫防除	1　展葉期のアブラムシ類防除のため、発芽後に殺虫剤を散布する。 2　カイガラムシ類の冬期防除を徹底する。 3　黒星病防除を徹底する。
6　ヤニ吹き果対策	1　多発園では冬にホウ砂を20～50g/樹施用し、5月に1～2回0.2～0.3%のホウ酸(生石灰半量加用)を葉面散布する。 2　敷わらやマルチで土壌水分を保持する。

(4) うめ作業

月	旬	生育状況	作業名	作業の内容
2月	下	開花期	受粉	蜜蜂放飼量は30aに一群程度とする。
3月	下	落花期 発芽期 第一次生理的落果期	接木 防風対策	切り接ぎの適期で、受粉用品種を高接ぎするとよい。 防風樹(すぎ、ひのき、まき)の植付け適期。 枝の刈込み、人工防風垣の整備を行う。
4月	上 中	展葉期 新梢伸長	芽かき 追肥	徒長枝となる芽は早目にかぐ。 着果のよい園で、年間施肥量の10%程度を目安に施す。
5月	上 下	硬核始期 第二次生理的落果期 果実肥大期	摘果 新梢の誘引 捻枝・芽かき 収穫(小梅)	結果過多樹は果実の大きさが大豆大になった頃より実施し大玉果づくりをする。 幼木では主枝、亜主枝の延長枝は誘引をしてまっすぐに伸びるようにする。 不要な部分からの直上に向いた枝、主枝、亜主枝の延長枝と競合する新梢はかぎとるか捻枝して利用する。 収穫は、内果皮が黄色くなり始めた頃、または、果皮表面半分にツヤが出始めた頃を目安にする。
6月	上 中 下	成熟期	 収穫(青梅用) 徒長枝抜き 収穫(漬梅用)	 収穫は、内果皮が黄色くなり始めた頃、または、果皮表面半分にツヤが出始めた頃を目安にする。 徒長枝を間引き、下枝に光が入るようにする。 果面があせて黄色く着色し始めた頃を見計らって収穫する。

7月	上 下	花芽分化始期 花芽分化期	土壌乾燥防止 草刈り 追肥	梅雨明け後は土壌乾燥を防ぐため敷草など十分行う。 速効性の窒素肥料を主体に行う。結果量の少ない若木については新梢の止まりをみて施す。年間施肥量30%程を目安とする。
8～9月	下 上		芽接 徒長枝抜き	8月下～9月上旬にかけて適期、降雨後2～3日に接ぐと活着がよい。 強めの徒長枝を間引く。
10～11～12月	中	落葉期	元肥 苗木の植付け 土壌改良・深耕 整枝・せん定 老木樹の更新	10月下旬～11月上旬までに終る。 苗木の落葉後、出来るだけ早く植付ける。自家不親和性が強いので花粉樹の混植をする。 酸性土壌の改良、有機物の投入等土づくりを行う。 開心自然形に仕立てる。太枝の間引きをし、交差枝、直上枝、平行枝の順に間引きする。 中果枝の多い側枝を残し、古い側枝は切り返して若い側枝に適宜計画的に更新する。 老木樹の樹高切り下げによる樹形づくりを行う。

(5) 施肥基準

ア　うめ（成木）10a 当たり施用量

施肥時期	時期別割合(%)			成分量			施肥上の注意
	N	P_2O_5	K_2O	N	P_2O_5	K_2O	
元　肥(10月下旬～11月上旬)	60	100	60	6.0	6.0	4.8	(1)成木園10a当たり収量1,000kgを基準とする。 (2)施肥量は肥沃地で10%減、やせ地では20%増とする。 (3)4月下旬の追肥は着果過多園のみとする。
追　肥（4月下旬）	10	―	10	1.0	―	0.8	
追肥（7月中・下旬）	30	―	30	3.0	―	2.4	
計	100	100	100	10.0	6.0	8.0	

イ　うめ（幼木）10a 当たり樹齢別施用成分量

樹齢	N	P_2O_5	K_2O	施肥上の注意
3年生	3	2	3	(1)5年生までは10a当たり30本程度とする。
4年生	4	3	4	
5年生	5	3	4	

(6) うめ品種特性表

品種・系統名	原産地及び来歴	果実の特性	樹の特性	栽培上の注意事項	収穫期
竜　峡　小　梅	長野県下伊那郡松川町 大　栗　重　寿　氏 山乃田小梅の枝変り(長野県の在来種) 昭和37年　名称登録	果実は淡黄色、球形、果頂部は丸く片肉果がほとんどなく玉揃いは良好である。 重さ2g程度の小粒、核は10×8㎜位で小さく、果肉は厚く密である。	樹勢は中位で樹姿はやや直立性であり、枝は緑色で細く、葉は倒卵形、大きさは中庸、花弁は小さく、白色5弁で弁間にすき間がある。花粉が多く、自家結実率は高い。豊産性で隔年結果性は低い。	開花が早いので地形等栽培立地を選ぶこと。 他品種と混植すると一層結実がよくなる。	5月下旬～6月上旬
玉　　英	東京都青梅市仁俣尾 野　本　英　一　氏 偶発実生 昭和35年　名称登録	果実は25～30g程度でやや大きく、果形は全体に豊満な円ないし短楕円形で果頂部がわずかに尖る。 果肉は淡緑色で厚く、果皮は淡緑色で陽光面はごくわずかに着色する。梅酒用品種として適する。	樹勢強健で開張性、下枝はやや下垂する。枝は太く長く、密生し、短果枝の着生も多い。葉は厚く、やや大きく光沢ある緑色を呈する。 花は黄白色単弁で大きい。 花芽の着生は多く、耐寒性は強い。	花粉が非常に少ないので受粉樹が必要、若木の間は枝の伸びがよいので肥沃地では密植にならないようにし、間引きせん定を中心にする。	6月中旬
鶯　　宿	徳島県名西部神山町 大正初期和歌山県より導入した穂木より生じた品種といわれている	果実は短楕円形で26g程度と大きく、果皮は濃緑色で日当たり面はわずかに着色する。 果肉は厚く、外観・品質とも優れ、豊産性である。 梅酒用品種として適する。	樹勢はきわめて強く、枝は若木では直立性であるが成木になると開く。枝は太く発生も多い。 花は淡い桃色単弁で大きさは中位で花粉は多く稔性も高い。	樹勢が旺盛であるので間引きせん定をして樹勢をおちつかせる。 他品種を混植すると一層結実がよくなる。かいよう病にやや弱い。	6月中旬
南　　高	和歌山県日高郡南部川村(現みなべ町) 高　田　貞　楠　氏 内田梅の実生選抜 昭和40年　名称登録	果実は20～30gで大きさは中、果形は短楕円形で縫合線は浅いが明らかである。 果皮は淡緑色でやや毛茸が多く陽光面の一部に紅色を呈することがある。 梅酒用品種として適する。	樹は強健で樹勢中、樹姿は半円形の開張性である。枝はやや直立し、結果枝は太く密生し、中果枝程度の枝にもよく結実する。 葉の大きさは中、出葉早く、発芽当時は若葉が赤褐色を呈する。 花は白色単弁で大きさは中位、不完全花は少ない。	枝梢の発生が多いため間引きせん定を中心とする。 他品種と混植すると一層の結実がよくなる。	6月中旬～下旬
白　加　賀	不明	果実は25～30gで大きく、果形は楕円形で縫合線は浅いが明らかであり、玉揃いは良い。 果皮は緑色で着色は少ない。果肉は厚く多汁である。 梅酒用品種として適する。	樹勢は強く開張性であり、枝は太くて長く下垂しやすい。短果枝の着生は多い。葉は大きく、先端は細く基部でやや曲がっている。 花は白色単弁で、花弁は大きい。不完全花の発生は少ないが、花粉はほとんどなく自家結実しない。	花粉がほとんどないので、受粉樹の混植が必要である。	6月中旬～下旬